

2004年5月20日

株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
2-5 F・Kビル
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
広報部 03-5614-1078
mail address : koho@fujji-keizai.co.jp

中国、韓国、台湾、東南アジア 5ヶ国の医療機器調査を実施

超音波画像診断装置、MRIなどの画像診断装置が今後の有望市場

総合マーケティングビジネスの株富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務 03-3664-5811)はこのほど、中国、韓国、台湾、東南アジア5ヶ国(シンガポール、マレーシア、フィリピン、タイ、インドネシア)の医療施設の現状、法規、医療機器の市場動向を調査し、その結果を報告書「注目アジア医療機器市場の全貌 2004」にまとめた。

注目したい市場の概要

<中国市場>対象21品目

1. 2003年の市場規模は1,616億円、2005年(予測)は1,947億円

年率10%前後の成長を続け、2005年は2003年対比120%の1,947億円に達すると予測される。生活水準の向上、徐々に高齢者の人口が増加していること、立ち遅れていた病院の基本装備を標準的な装備にするための政策をSARS流行後に積極的に推進していることなどが成長の要因として挙げられる。中国の現地メーカーの参入が増えており、製品品質も改善されつつあるものの、高性能、高品質の医療機器の大半は依然として、日米欧の海外メーカーのものである。海外メーカーは中国国内での生産に力を入れている。画像診断装置のGE、Siemens、日立メディコ、島津製作所、東芝メディカルシステムズなどが生産設備の拡充を行い、中国国内のみならず世界市場向けの生産も開始しつつある。

2. PACS^{*1}、超音波画像診断装置、MRI^{*2}などが03年から05年にかけて年率2ケタ成長の有望製品

2003年の市場規模は超音波画像診断装置が316億円、MRIが117億円、透析器が77億円、人工関節が39億円、PACSが25億円。2005年は超音波画像診断装置が410億円(2003年対比130%)、MRIが149億円(同127%)、透析器が93億円(同121%)、人工関節が47億円(同121%)、PACSが43億円(同172%)と2003年から2005年にかけて年率2ケタ成長すると予測される。特に、画像診断装置や医療情報システムが高い伸長率を示すとみられる。高水準の治療や診断にとって必要な医療機器・システムであり、中国国内においてもそうした医療への需要が高まっていることが要因として挙げられる。

*1 PACS (Picture Archiving & Communication Systems) : 医用画像の保管・管理システム

*2 MRI : 磁気共鳴画像診断装置

3. 2005年(予測)に100億円を超える市場は7品目

2005年に100億円を超える市場は、超音波画像診断装置(410億円)、X線CT装置(309億円)、X線診断装置(218億円)、血液検査装置(216億円)、内視鏡(175億円)、MRI(149億円)、心臓ペースメーカー(105億円)である。この7品目で市場の80%を占める。

<韓国市場>対象19品目

1. 2003年の市場規模は815億円、2005年(予測)は1,104億円

2003年の815億円から二ケタ成長を続け、2005年には1,104億円(2003年対比135%)に達すると見られる。2005年に100億円を超える市場は、人工関節(345億円)、X線診断装置(141億円)、血圧計(109億円)の3品目で、X線CT装置、MRIが続き、上位5品目で50%以上を占める状況が続くと予測される。

2. 2003年から2005年にかけて19品目中13品目が年率2ケタ成長

MRI(2003年対比171%)、X線CT装置(同149%)、超音波画像診断装置(同148%)などの画像診断装置をはじめ、13品目が年率2ケタ成長する事が見込まれる。韓国では、2002年から20

0床以上の病院施設を対象にCT、MRIなどの画像診断装置による診断に保険が適用されるようになった。保険適用により画像診断を受ける患者が増加することに加え、韓国では画像診断装置による診断は儲かる(治療、手術するか否かの検査で必ず必要となる)という意識が根強くある。そのため資金力のある大手病院では患者数を増やすために、画像診断機器や先端治療機器の設備投資を進めるとみられる。一方、医薬分業を契機として増加した個人開業病院などでは、外来患者数の獲得を目指して、ローエンドな医用検査装置の増加が期待される。

<台湾市場>対象16品目

1. 2003年の市場規模は291億円、2005年(予測)は351億円

2003年はSARSによる混乱から薬剤など基礎医療に重点を置いたため、医療設備の新規需要が鈍化し、対前年比9%マイナスとなった。2004年以降は回復に向かい2004年には2002年水準を回復し2005年には、2003年対比121%の351億円に達すると予測される。特にMRI、X線CT装置をはじめとした画像診断装置の回復は急で2003年の倍近くに伸長するとみられる。

台湾の病院で導入されている画像診断、治療設備などは殆ど米国、日本、ドイツからの輸入品であり、現地メーカーが提供できるのはディスプレイ用品などの医療消耗材料やPACS、HIS^{*3}などの医療情報システムが中心になっている。

*3 HIS(Hospital Information System) : 病院情報システム

2. 2003年から2005年にかけて16品目中9品目が年率2ケタ成長

SARSの影響で2003年に市場が落ち込んだこともあり2005年にかけては高成長を維持すると予測される。画像診断装置や脳波計(2003年対比157%)、心電計(同128%)の生体物理現象計測・監視装置、尿検査装置(同139%)、臨床化学自動分析装置(同122%)などの検体検査装置が牽引していくとみられる。

台湾の医療施設では、病院経営の見直しを図る為に、有能なドクターや医療設備を有効利用して、コスト削減や収益改善するのが有効であると考えており、病院間の連携や連合検査室が増加する傾向にある。このような連合病院向けの設備需要として、高度画像診断装置(マルチCT、PETなど)、遠隔PACS、電子カルテなどが期待される

<東南アジア市場>

1. 対象9品目2003年の市場規模は366億円、2005年(予測)は417億円

金額ベースで把握した9品目の市場は2005年に400億円を突破すると予測される。2005年(予測)の市場は、人工関節(119億円)、X線診断装置(86億円)、内視鏡(81億円)、透析器(46億円)の順となり、この4品目で80%近くを占めるとみられる。

2003年から2005年にかけて年率2ケタ成長が予測されるのは、X線CT装置(2003年対比148%)とMRI(同129%)である。

2005年まで毎年6%前後の成長が期待される要因としては、人口規模が大きいこと、1997年の経済危機から回復し更なる発展が期待できること、また政府の医療費に対する投資が期待されることなどが挙げられる。

調査の背景

中国や東南アジアでは高度な先端医療機器の普及基盤が貧弱である。新型肺炎SARSの大流行に端を発した新たな感染症の対策・防止などを背景として、保健医療水準の向上に貢献する医療機器の需要が旺盛である。特に中国市場では、WTO加盟により市場開放の推進や輸出競争力の強化などを旨とした国際標準の導入が積極的に行われ、国際水準クラスの高性能を有する先端医療機器を求める需要が急速に高まっている。

今後、ますます医療の高度化が期待されるアジア市場に対して、進出を加速する日欧米の医療機器メーカーは、コスト競争力の強化に懸命になっている。また、中国市場では現地法人設立によりシェア拡大を図っており、アジア市場における国際競争が一層激しくなっている。

こうした状況を踏まえ、急成長している中国市場をはじめ、台湾、韓国、シンガポールを始めとする東南アジアの各地域ごとに医療機器マーケットの実態を捉えると共に、日欧米の有力医療機器メーカーの動向、

各国の医療制度改革の最新情報、現地の製造・販売体制の整備状況など、アジアの主要各国における動向を分析し、今後のアジア医療機器市場の方向性や展望をまとめた。

< 調査対象地域 >

中国、韓国、台湾、東南アジア（シンガポール、マレーシア、フィリピン、タイ、インドネシア）

< 調査対象品目 >

分類	品目	中国	韓国	台湾	東南アジア
画像診断装置	X線診断装置				
	X線CT装置				
	MRI				
	超音波画像診断装置				
	内視鏡				
治療・手術装置	放射線治療関連装置				
	手術装置				
	その他施設用機器				
生体物理現象計測・監視装置	血圧計				
	生体磁気計測装置				
	心電計				
	脳波計				
検体検査装置	臨床化学自動分析装置				
	血液検査装置				
	免疫学的検査機器				
	尿検査装置				
生体機能補助・人工臓器	心臓ペースメーカー				
	人工関節				
	透析器				
医療情報システム	HIS				
	PACS				
医療用ディスプレイ・ザブル用品	注射器・注射針				
	医療用X線フィルム				

は販売台数ベースの市場のみ（金額ベースでは捉えていない）

< 調査対象企業 >

GE Medical Systems, Siemens, Philips, Bayer, Roche, Beckman Coulter, Abbott, Stryker, Zimmer, Johnson & Johnson, Gambro, Fresenius, Medtronic, Medison, Kodak, 東芝メディカルシステムズ, 日立メディコ, 島津製作所, オリンパス, アロカ, アークレイ, シスメックス, テルモ, ニプロ, 日本光電工業, 富士写真光機, フクダ電子, ペンタックス, コニカミノルタ, 富士写真フイルム, 万東医療設備, 上海医用光学, 上海医療設備, 東軟数字医療系統, 大同股, 台湾電腦 等

< 調査方法 >

富士経済専門調査員による医療機器メーカー及び病院施設に対する現地調査

以上

資料タイトル : 「注目アジア医療機器市場の全貌 2004」

体 裁 : A4判 271頁

価 格 : 200,000円 (税込み210,000円)

調査・編集 : 富士経済 大阪マーケティング本部 第三事業部

TEL:06-6228-2020(代) FAX:06-6228-2030

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp>